

今月の一言 皆さんの家庭では年間どのくらいのCO₂が発生しているのでしょうか？その量は多いのでしょうか？少ないのでしょうか？現状を知るといろいろなことが見えてきます。環境負荷の削減には現状を把握して、戦略を立てることが必要です。（松縄 堅）

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。NSRIのニューズレター（VIEW）は、本年も月に一度の発行を目指し、都市と環境とデザインをテーマとした現況や課題、取り組み、提案などを様々な視点からお伝えできるよう、内容の充実を図って参ります。引き続き、皆さまのご愛読をお願い致します。（VIEW編集部一同）

ドバイ報告・・・脱石油型都市開発をめざす 産油国に見る環境親和への熱き執念

昨年の11月3日～7日にかけて、UAE（アラブ首長国連邦）のドバイとアブダビに出張し、黒川清内閣府特別顧問と小池百合子元環境大臣、茂木敏充衆議院議員他を首脳とする技術資源外交の趣旨での、官と民間コンソーシアムとによる我が国の最新鋭環境技術の展示説明シンポジウムに同行致しました。この視察で感じましたことを簡単にご報告しましょう。

指導層の開明さと都市経営のセンスの良さ

今やすさまじいばかりの建設投資集中の渦中にあるドバイですが、砂漠の中に突如、米国アトランタの1/3程度の都市が一挙に猛々しく立ち上がるような巨大なエネルギーが横溢しています。ただ、都市経営の哲学の違いなのか、隣のアブダビと何か空気が異なります。リゾート観光国、コンベンション都市等を銘打っている一方、産油国でありながら脱石油型都市開発政策を諸外国の環境技術の積極的導入などで推進することで、インフレを抑え、金取引を有利に据え、湯水の如く「真水」を生産配水し、国土全域を緑化して景観を潤わせ、外国から大勢の人々を招き入れ、都市を生き生きとした姿で経営し、国の骨格を築いていこうとする総合的な「センスの良さ」が感じられる国柄と見て執りました。折り目正しい指導層の姿勢は、この印象を強めました。

技術資源外交と「クールシティ」の提言

我が国の官民大編成団が掲げるプロポーザルの軸となった理念が、黒川顧問提唱の「イノベーション25」をベースとする「クールアース50（2050年までにCO₂削減50%という目標）」の国際的連携の呼びかけでした。世界各国がそれぞれ開発して来た革新技術をこの時点で再編統合して一層の発展を期そう、という趣旨の提唱であり、我が国の先端的な環境技術のアピールを展開する一方、この地に相応しい新都市像へ向けての提案として「クールシティ」があわせて示されました。先方の水&エネルギー大臣を筆頭とする政府閣僚・財界首脳の方々の関心の波長は双方合ったようで、これらに熱心に聞き入り、現地の報道も高い関心を示し、この技術資源外交の企画はひとまず成功裏に納められました。

気候風土の厳しい立地にこそ歴史の叡智が埋もれている

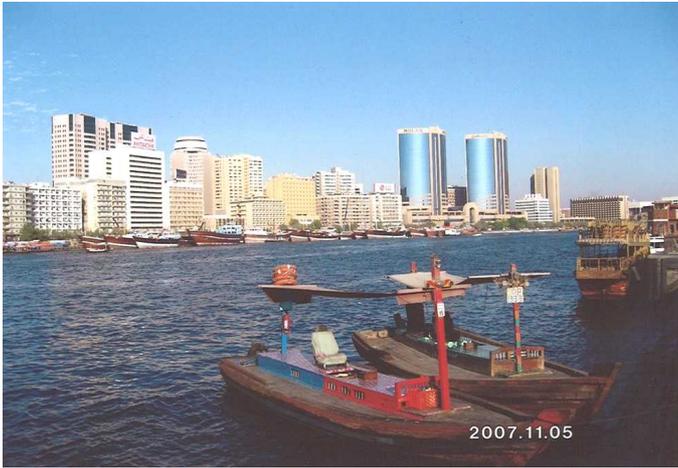
現地に立つと考えさせられるのが「水」「土」「風」です。アッラーの神の思し召しなのか、油と共に真水（日本の淡水化技術）をふんだんに使って緑化する執念の深さ。街は、建築デザインがマチマチなものの噴水と芝生に満ちており、砂漠の緑化事業には、島国の我々の想像を超える厳しい気候風土を克服して来た民族存立の血の濃さで支えられている叡智が感じ取れます。民家集落に足を踏み入れて、土壁の住まいを見て驚くのは、厚み50cm以上もある壁厚もさることながら、その重い土の量塊の住まいの中を、昼夜の風が爽やかに通り抜ける「風の塔」の仕組みの巧みさです。夜は放射冷却で温度が極端に下がり昼は灼熱地獄。長年の庶民の叡智の所産でしょうが、環境親和の原型のナマのかたちを見せつけられた思いでした。気候風土の厳しい地域こそ、環境親和の仕組みのシリアスさが問われるのは、古今東西、地域を問わない真理であり、そうした地域の地中にこそ叡智のBOOKが埋もれているものとも言えそうです。その意味で、こうした叡智を組み入れた今回の提言は、他の地域への適用にも活かせるリアリティある力作と見ました。

（與謝野 久）



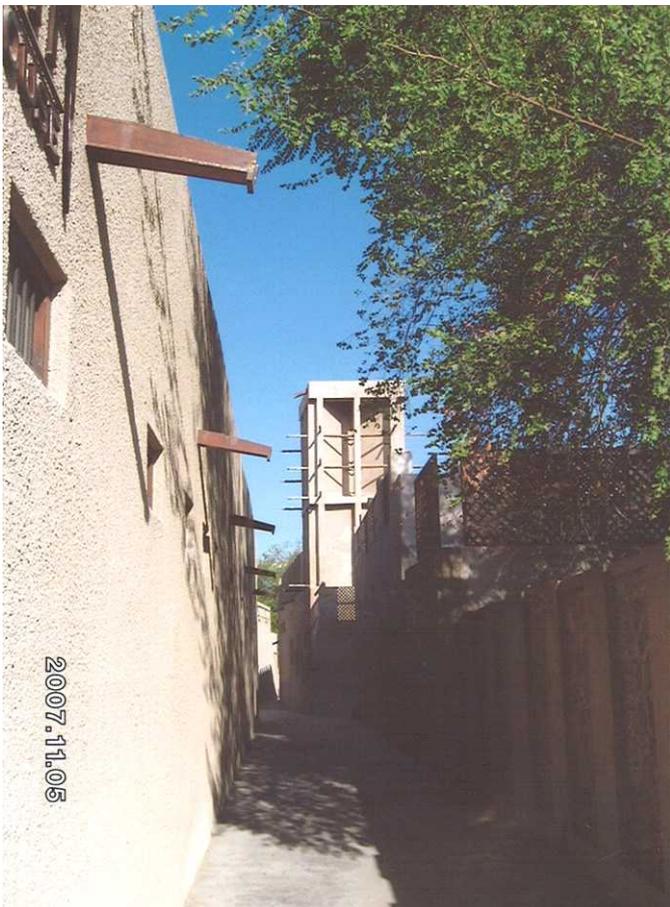
『木々と芝生に充ちた市街』

アカシアを主たる樹種とし青々とした芝生と共に緑地公園が大きな面として広がっていく。砂漠を緑化する執念は極めて強い。



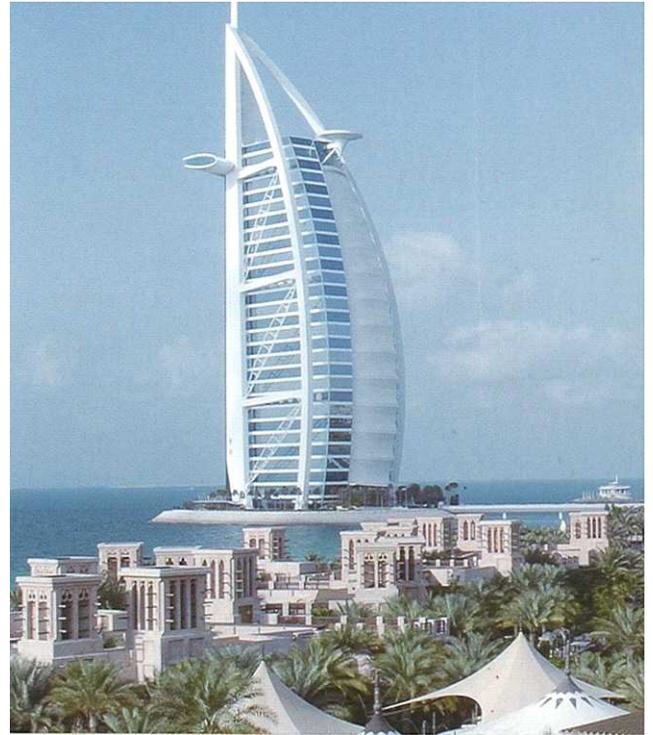
『中心市街に豊富な水景を提供するクリーク』

内陸から海岸へ流れる河川を、海運の発展のために発展させたクリーク。水面が異様なほど濃く、豊富な水景観が展開する。



大きなアカシアの木に包まれた『旧市街の民家集落』

各々の家は、外に対しては小さな窓とし、中の居室を2～3つの中庭に面させてこちらは開放的な窓としている。各民家の屋上には自然通風のための「風の塔」が設けられ印象的景観。



『海岸沿いに展開する新景観』(観光パンフより転写)

大らかな海原の中に浮ぶ最先端ビルの底抜きの明るいデザインと、旧市街の民家集落の風の塔をモチーフにして風土におもねた奔放なデザインの特色あるビーチホテル棟の展開が、この国の解放性の息吹を物語る。



提案された『クールシティ』の完成予想図 (SDCJ提供)

直径約500M、約250haのコンパクトなサステナブルシティの提案。海岸から海水を引き込み、中央部にCBDと住区を集約配置し、周囲を大規模に緑化して風と湿りとを誘発させる微気象環境を生み出し、自然の恩恵(陽光・水・風・土・海水等々)のフル活用と水素系資源・新交通体系等で、砂漠における持続型都市像を示した。

定期配信をご希望の方

定期配信を御希望の方は、下記メールアドレスまでご連絡をお願いいたします。

(chihiro.kimura@nikken.co.jp 担当: 木村千博)

編集後記

昨年一年を振り返り、子供達の成長を喜びながらも、私自身は成長しているのだろうかと不安を感じますが、新しい年を迎えて、新たな気持ちで年度末の山場を乗り越えたいと思います。(T)

日建設計総合研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 Tel 03-5224-3010 Fax 03-3284-4050

URL: <http://www.nikken-ri.com> 発行: 2008年1月8日